

# 段ボールジオラマ

自分で作る、だから考える。

## 1 経緯（段ボールジオラマの寄附及び活用）

倉敷市・高梁川流域 SDGs パートナーである日本たばこ産業株式会社岡山支社様（以下、JT）は、「災害分野」に取り組む団体の事業を支援する「SDGs 貢献プロジェクト」を行っており、倉敷市が主催する「くらしき防災フェア」へ協賛いただきました。

JTが主体である「Rethink PROJECT」事業では、「段ボールジオラマ」を活用した防災教育プログラムを釜石市、仙台市など東日本を中心に実施しており、昨年11月23日に倉敷市が開催した「くらしき防災フェア」においても、段ボールジオラマを活用した防災教育プログラムを実施していただきました。また、段ボールジオラマについては、倉敷市の今後の防災啓発活動や防災教育等に活用してほしいとの思いから、この度、倉敷市へ寄附いただきました。

## 2 段ボールジオラマの概要について

(1) 範囲 市内全域が収まる東西：約 26 km、南北：約 30 km

(2) サイズ 横：約 2.0m、縦：約 2.3m、高さ 0.1m

(3) 縮尺 1/13,000

(4) 等高線 20mピッチ ※高さ方向に 3.25 倍強調

(5) その他

- ・右図のとおり、倉敷市を5地区に分割して使用可能
- ・段ボール上には地図が印刷され、小学校等の施設等が表示
- ・ハザードマップ（洪水・土砂災害）を印刷した透明シートとセットで活用
- ・平面ではわかりにくい急斜面やくぼ地などの地形の様子が立体的に見ることができる



ハザードマップのシートをセットした例



自宅や小学校を探し、マークを付けた例

### 3 くらしき防災フェアでの防災教育プログラム（授業）実施について

昨年11月23日に倉敷市が開催した「くらしき防災フェア」では、20分程度の授業を15回実施し、延べ415名の参加をいただきました。授業は水害(洪水・高潮)、土砂災害、地震、津波の4つのテーマから参加者の希望に沿った内容を展開し、ジオラマにハザードマップのシートをセットしたり、動画や古い地図なども見たり、クイズも交えながら楽しみながら実施しました。

倉敷市の平野部は広範囲で浸水リスクがあることや海を埋め立てた土地や田んぼだったところが多いため、地震による液状化のリスクが高いことなど、ジオラマを囲みながら、皆さん熱心に話を聞かれています。



講師による説明やクイズの様子



段ボールジオラマ全景



AIによるタブレットを使用した体験

### 4 段ボールジオラマを活用した防災教育プログラムについて

段ボールジオラマとは、等高線に沿って切り抜かれた段ボールパーツを積み重ねることで、小学生も簡単に組み立てることができるジオラマキットです。段ボールジオラマを活用した防災教育プログラムは、誰にでもわかりやすいジオラマを楽しみながら自分たちの手で作り上げることで、自分たちが住む地域の地形や災害リスクを自然に「体感」することができ、防災意識の向上へつなげることができるプログラムです。

今後、倉敷市が主催するイベントや学校教育、生涯教育の場で活用していきます。

#### ●プログラムの特徴・工夫

##### ①誰でも簡単に作れる

等高線に沿って切り抜かれたパーツを積み重ねるだけでなので、小学生も簡単に組み立てることができます。

##### ②体感するから覚える

楽しみながら自分たちで作ることで、自分のまちへの関心を高めつつ、防災意識の向上へつなげることができます。

##### ③親子で楽しめる

大人も楽しめる内容のため、親子で地域や防災について考える良い機会になります。